

『まいごばなし』

※スパークスのボトムアップ・リサーチを通じて、
MY小話として舞妓さんが日本株の情報をお伝えします。
スパークスの日本株の情報発信レポート



第79号(2013年1月4日)

アベノミクスと資産運用について

3年超の民主党政権の間に円高が進み、製造業を中心に「六重苦」などとも呼ばれました。尚、長年円安論者として知られるフジマキ・ジャパンの藤巻さんは「六重苦ではなく一重苦」として、円高が特に大きな問題であると警鐘を鳴らし続けてきました。

2011年には対ドルで史上最高値を更新し、グラフにもある通り円高が続き、円高の長期化による国内産業の空洞化問題などが話題になりました。しかし、今年の9月に安倍自民党総裁が就任したことをきっかけに流れは反転し、12月27日時点では1ドル85円台まで円安が進んでいます。



出所: FACTSETのデータを基に当社作成



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。

『まいごばなし』

※スパークスのボトムアップ・リサーチを通じて、
MY小話として舞妓さんが日本株の情報をお伝えします。

スパークスの日本株の情報発信レポート

第79号(2013年1月4日)



一方で、円安よりもむしろ円高が望ましいという意見もあります。特に東日本大震災以降は原発の操業を止めたことにより燃料の輸入が急増し、円が安くなった場合は更に輸入金額が増加して貿易収支が悪化するというのがその主な根拠のようです。

では円高と円安はどちらがよいのでしょうか。もちろんこれは主張する個々人の立場にもよります。たとえば、今年は日並びもよいことからバケーションに海外に行かれる方も多いかと思いますが、そういった方にとっては円高の方が望ましいでしょう。しかし、前のページのチャートにある通り、株式市場にとっては当面は今の円安への転換が望ましいと受け止められています。

尚、総選挙前に公表されたゴールドマン・サックス証券による推定では、ドルに対して10%円安化した状態が1年間継続すれば、輸出は6兆円以上増加するとのことでした。この場合、輸入金額が増加してもそれ以上に輸出金額が増えて、日本経済にとってはプラスとのことでした。

さて、安倍首相の経済政策、いわゆるアベノミクスの中でも特に大きな関心を集められているのは、2%の物価目標を設定することについて日銀と政策協定(アコード)を結ぶというものでしょう。では、仮に2%の物価目標が設定されて更なる緩和策が続いた場合、一般個人としてはどのような資産運用が望ましいのでしょうか。

まず、現状のゼロに近い金利が続くであろうことから、預金が有利ではないことは異論は出づらと思います。仮に2%近くの緩やかな物価上昇が続く場合、現預金の相対的な価値は目減りします(たとえば、今年100円の製品が来年102円になる場合、金利がゼロに近い状況では現金100の価値が下落します。)



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。

『 まいごばなし 』

※スパークスのボトムアップ・リサーチを通じて、
MY小話として舞妓さんが日本株の情報をお伝えします。

スパークスの日本株の情報発信レポート

第79号(2013年1月4日)



アベノミクスと円安について

株式と並んで資産運用の柱である債券はどうでしょうか。一般的に金利と債券価格は逆方向に動きます。たとえば金利が下がる時は債券価格は上昇します。従って、現状のゼロに近い短期金利、歴史的に低い長期金利に下落の余地が乏しいと考える場合、債券、あるいは債券をベースにした商品に価格上昇の余地はなさそうです。

一般的に、インフレ時に有利な資産としては、株式、あるいは不動産や金のような実物資産が挙げられます。実際に不動産市況については回復の兆しととれるニュースも増えており、昨年はいわゆる不動産投資信託(J-REIT)のパフォーマンスも好調でした。金についても昨今はセミナーの参加者数などが増えていると聞いています。

一方で、円安、あるいはこれまでの経済政策の転換などから今度こそ日本株が復活するのではないかという意見も増えています。12月20日付けの日経新聞の報道によれば、海外投資家が5週間で1兆円超の買い越しをしているとのこと。BRICsという用語の生みの親であるゴールドマンサックスのジム・オニール氏は11月16日付けで「We want Abe!(仮訳: 安倍氏が望ましい)」と題したレポートを出して国内でも注目を集めました。

株式市場の先行きについて断定的な見方はできないものの、国内エコノミストの間でも2013年末には日経平均が1万2千円、あるいは1万3千円といった予測も出てきています。

投資信託は投資家の小口の資金を集めて、プロが代わって運用するスキームの商品です。日本株のスペシャリストとして弊社も日本株の投資信託を多数ご提供しておりますので、日本株への投資をご検討の際には、選択肢の一つとしてご覧いただければありがたいと思います。

今年もよろしくお願いいたします。



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。